

イソップ童話の中の『三匹の蛙』からの話

イソップ童話の中の『三匹の蛙』からの話

三匹の蛙が牛乳の容器のなかに落ちました。

悲観主義の蛙は、何をしてもどうせだめだからと考えて、何もせずに溺れ死にました。

楽観主義の蛙は何もしなくても結局うまくいくだろうと考えて、何もせずに溺れ死にました。

現実主義の蛙は、蛙にできることはもがくことだけだと考えて、もがいているうちに、足元にバターができたので、バターをよじのぼって、ひと飛びして容器の外へ逃げ出しました。

時代が変わるときの不安や躊躇からの脱出の糸口は、よく考えられた試行錯誤、実験のなかから見えてくる。